



## 総合診療内科・泌尿器科医あいさつ



総合診療内科  
泌尿器科医

陣内 紀旭

### 地域医療に貢献！

昨年10月に赴任しました総合診療内科・泌尿器科の陣内と申します。以前は岩手県で働いていました。もともとは泌尿器科を専門にしていたのですが、日常診療で、もう少し自分の診療の幅を広げたい、プライマリケア的な診療技術を磨きたいという想いがあり、地元いわき市に帰るタイミン

グで内科への転科を決意いたしました。といひましても、まだまだ駆け出しの経歴ですので、周囲の先生方に御指導頂きながら診療を行っております。

外来診察日ですが現在、総合診療内科は火木土（土曜日は一部）、泌尿器科は月水金の午後に診療を行っております。今回は当院に赴任してから力を入れていることについて述べたいと思います。

### 排尿のQOL改善を目指す！

排尿症状の訴えは三者三様であり、その原因も多岐にわたります。外来での訴えで多いのは、頻尿、夜間頻尿、尿意切迫感、排尿困難、残尿感、排尿時痛、等々。これらの症状をまとめて下部尿路症状（LUTS: Lower Urinary Tract Symptoms）といいます。LUTSの原因は泌尿器科疾患であることが多いのですが、糖尿病や高血圧、肥満などの生活習慣病や心不全、腎不全、睡眠障害、内服薬などでもLUTSを引き起こすことがあります。

外来で訴えを聞いてみると実はこれら内科的疾患が原因だったという事が少な

くありません。一人の患者さんに複数の病態が関与していることもあります。網羅的に原因を検索し、それぞれの病因に応じて内科的・泌尿器科的にアプローチすることで、患者さんにとって満足度の高い治療を提供できるよう心がけております。

また、入院中の患者さんで排尿症状が顕在化してくることがあります。これらは入院を契機とした環境の変化や長期臥床による体力低下、尿道バルーン留置の既往などが原因となることが多いです。そのような方には必要に応じて内服薬の調整や定時導尿を行い、自排尿が得られるようサポートしていきます。

さらに、当院の健康管理センターでは前立腺がん検診（PSA検査）も行っています。症状経過や検査結果から悪性腫瘍が疑わしい場合には入院での前立腺針生検も対応可能となります（2021年6月より）。追加の検査や手術・放射線治療などの専門的な治療が必要な場合には近隣の病院への紹介も行っております。

今後も地域医療に貢献できるように研鑽を積んで参りたい所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 薬剤部長あいさつ



薬剤部長

星 弘光

### 安全でかつ質の高い医療を提供すること

2021年4月1日、当院薬剤部は新卒入局者1名を迎え、薬剤師8名（現在育児休暇1名）、調剤補助員2名で組織・構成され、入院・外来調剤業務、注射剤払い出し、院内製剤業務、薬剤管理指導、医薬品情報管理、医薬品の品質管理、医薬品の

在庫管理、がん化学療法におけるレジメン管理と抗がん剤の調製業務、TPN調製、持参薬管理と薬剤師病棟業務（未算定）など各種業務を兼務の上、分担して行っています。

2020年4月の診療報酬改定にも表れているように、薬剤師に対する期待は大きなものとなってきました。その期待は、『安全でかつ質の高い医療を提供すること』に繋がり、薬剤師の責務として更に強く求められてきています。

調剤・調製した薬の有効性と安全性の確保、薬剤管理指導の業務の充実と拡大、医薬品情報の適切な提供と充実した情報収集、医薬品の管理と安定した供給体制の確立、そして非常時に備えた体制作り等もその一つだと考えています。どれひとつとしておろそかにできるものではなく、病院と一体となって、薬剤師の職能を十分にいかし、その徹底に更なる努力が必要です。

薬剤部の業務は多岐にわたります。その為、業務の見直しと効率化は常に検討していく必要があります。毎週、薬剤部内でのミーティングを行い、その中で、

求められること、実現できること等を話し合い、改善を行っています。

医師や看護師の業務負担軽減、タスクシフトにも取り組みを行っており、PBPMの承認を得て運用も行っています。

マンパワー不足から、継続性を考えると手が出せない業務のあることも事実です。しかし、少しずつですが薬剤師の確保が進む中で業務を拡大していきたいと考えています。

薬剤師教育の体制も常に見直し、人として、医療人として、薬剤師として大きく成長できるようサポートをしていきたいと考えています。薬剤師になると自らの専門を先に決めたる風潮が最近は多くみられるようですが、まず薬剤師はジェネラリストであって、成長していく中でスペシャルな部分を各薬剤師が持ち、活躍していくことを目指してほしいと考えています。

薬剤師に対する期待が大きくなる分、それに応える活躍ができるよう薬剤部として職員一丸となって日々頑張っています。

## 薬剤部紹介①

- **薬剤師** ..... 8名 (育休1名)
  - がん薬物療法認定薬剤師 ..... 1名
  - 漢方・生薬認定薬剤師 ..... 1名
  - NST 専門療法士 ..... 1名
  - 福島県糖尿病療養指導士 ..... 2名
  - 認定実務実習指導薬剤師 ..... 2名
- **調剤助手** ..... 2名



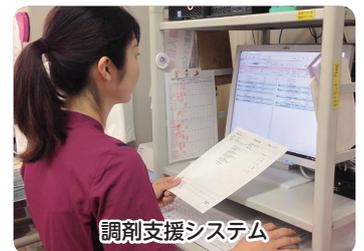
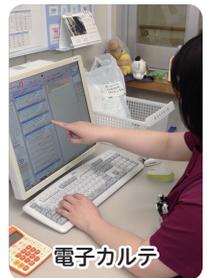
### 調剤業務

当院は院外処方のため入院調剤を中心に行っており、医師が処方した処方箋に基づき散薬監査システムや自動錠剤分包機などの調剤システムを使って調剤しています。薬剤の適正な用法・用量の確認や電子カルテから患者様の情報（薬剤重複・飲み合わせ・腎機能／肝機能などの検査値）を収集し、疑問のある際には処方医師に確認することで患者様に安全な医療を提供できるように努めています。

**【業務の流れ】** 処方箋受付・処方監査（疑義照会）→処方箋発行・薬袋作成→計数・計量調剤→最終監査→病棟（患者様）へ

剤形・用法・用量・相互作用・投与禁忌・重複投与などを確認

- ☑ 処方箋受付・処方監査
- ☑ 処方箋発行・薬袋作成
- ☑ 計数・計量調剤業務
- ☑ 最終監査



### 製剤業務

市販の医療用医薬品では対応できない場合に医師の依頼に基づいて製薬会社では発売されていない薬を調製しています。市販されていない薬を調製するために、文献をあたり薬学的見地により調製方法・保管方法を検討し、安全な製剤を提供できるように努めています。

適用部位によって無菌操作が必要な製剤は、クリーンベンチやオートクレーブ（高圧蒸気滅菌機）を使用しています。



院内特殊製剤の調製

- ☑ 市販されていないため、院内で独自に調製される医薬品
- ☑ 無菌的に調製する必要のある薬はクリーンベンチで調製

### 注射調剤業務

調剤業務と同様に医師の指示に基づいて患者様ごとに薬剤をセットし、病棟に払い出しています。

注射薬では投与量や相互作用などのほかにも投与ルート・投与速度・配合変化／安定性なども確認しています。処方によってはクリーンベンチでの混合調製を行っています。

**【業務の流れ】** 処方箋受付・処方監査（疑義照会）→処方箋発行・ラベル発行→計数調剤→最終監査→（混合調製→）病棟（患者様）へ

用法・用量・相互作用・投与禁忌・重複投与などを確認 さらに注射には、投与方法・投与速度・配合変化等の監査事項が追加される

- ☑ 処方箋受付・処方監査
- ☑ ラベル発行
- ☑ 計数調剤
- ☑ 最終監査



## 薬剤部紹介②

### がん化学療法管理業務

がん化学療法とは抗がん剤を用いた治療法です。がん化学療法管理業務では医師から提出された化学療法レジメン（使用薬剤、投与量、投与速度、投与スケジュールを記したもの）の審査、患者様への服薬指導及び副作用確認を行っています。安全キャビネットでの抗がん剤無菌調製や患者様とがん化学療法に携わるスタッフへの抗がん剤曝露対策など、安全な治療を行えるように取り組んでいます。



- ☑ 抗悪性腫瘍剤  
無菌製剤
- ☑ 院内抗がん剤  
曝露対策
- ☑ 患者指導

### 医薬品情報管理業務

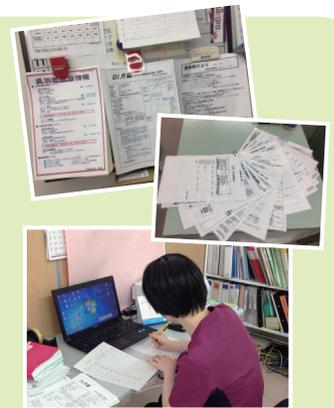
厚生労働省・製薬会社・医療学会から出される医薬品や治療に関する情報を収集し、関係部署に周知しています。採用医薬品に関して門前の薬局に情報提供しています。

また、院内で発生した副作用情報収集や医師・看護師からの質疑応答を電子カルテ上で情報共有できるようにしています。

- ☑ 日々通知、発表される医薬品に関する情報を、収集・評価し、医師などの医療従事者や患者に提供する。

#### DIの例

- 医薬品適正使用に必要な資料の整理・提供・持参薬の鑑別
- 医師・看護師からの質疑応答
- 薬剤部からのお知らせの発行
- 新薬・後発品情報の提供
- 後発医薬品（ジェネリック医薬品）の選定・感染症や中毒発生時の対応



### 病棟薬剤業務

入院時に患者様や家族様と面談し、持参薬の服用歴、副作用歴、アレルギー歴を確認し、入院中に使用される飲み薬・外用薬・注射薬について説明を行っています。薬を正しく使うために薬の名前や薬効、副作用を説明し、患者様の疑問や不安を解消し、安心して治療を受けられるようにお手伝いしています。

また、ほかの医療スタッフと情報交換をし、効果的な薬剤治療を行えるように努めています。



- ☑ 主に処方支援と  
患者の服薬管理業務

- 薬歴の確認
- 処方内容の確認
- ハイリスク薬・麻薬などへの対応
- 患者への説明と指導等
- 退院時指導
- 薬剤管理指導記録の作成
- カンファレンスへの参加

### 医薬品管理業務

発注や在庫管理が業務の中心で、適切な環境（温度・湿度・光）のもとで医薬品の品質管理をしています。病棟、外来診察室、手術室、救急カートへ配置している薬品の定数や使用期限の確認をし、期限内での薬品使用や必要時の薬剤提供ができるように管理しています。病棟・外来での管理指導も合わせて行っています。

また、医療用麻薬・毒薬・向精神薬の帳簿による在庫・払い出し管理をしています。

#### ☑ 医薬品の管理

- 温度、湿度等を考慮した品質管理
- 経済性を考慮した数量管理 ● 使用期限管理
- インシデント防止のための数量、配置、製品選択の工夫

#### ☑ 医療用麻薬・覚せい剤原料の管理

- 法的規制に則った厳重な保管と記録整備
- 外来・病棟での管理指導

#### ☑ 特定生物由来薬剤の管理

- 入庫・施用の適正管理 ● 20年間の記録の保管管理



## 薬剤部紹介③

### チーム医療

院内感染対策チーム  
 がん化学療法  
 緩和ケア  
 栄養サポートチーム  
 褥瘡対策チーム  
 糖尿病教室



### 学生教育

薬学部5年生を対象に11週にわたる病院実務実習を受け入れています。



## 医事課よりお知らせ

### 発熱や風邪症状等のある 場合の受診方法



現在当院では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、発熱や風邪症状のある方には院内への立ち入りを制限させていただいております。

そのため、発熱等の症状がみられた場合は一度当院へお電話いただき、指示に従って受診していただくようお願いいたします。

感染対策をしっかり行って  
 安心して受診して頂けるよう  
 取り組んで参ります。

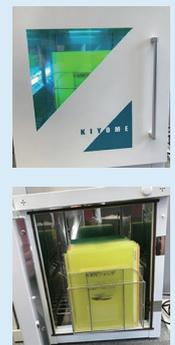
### ●ご来院の際には正面玄関での 検温にご協力ください。

来院されたすべての方に、検温のご協力をお願いしております。万一、37°C以上の場合はスタッフの指示に従ってください。



### ●外来用フォルダの除菌を 実施しています！

医事課では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として患者様に安心してご利用いただけるよう、紫外線による除菌ができる装置を導入いたしております。患者様が直接手に取る「外来用フォルダ」等を適宜除菌しております。



### 地域連携支援室

- TEL. 0246 - 63 - 2181 【代表】内線 2240
- TEL. 0246 - 62 - 3178 【直通】
- FAX. 0246 - 62 - 2035
- E-mail renkei@kureha-hosp.com
- <https://www.kureha-hosp.jp/>

■発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院  
 〒974-8232 いわき市錦町落合1番地-1  
 TEL. 0246-63-2181  
 FAX. 0246-63-0552  
 URL <https://www.kureha-hosp.jp/>  
 発行人 田中 稔  
 編集 地域連携支援室